

みらいん

32号
2014年
9月

恩送りの輪

受けたご恩を誰かに送ろう！



前略 お元気ですか／表紙のひと
みらいん編集部取材ダイアリー
沿岸部復興ニュース／これから住むまち
読者からひとこと／交流サロン紹介
クロスワードパズル／ふるさとにごつつおさん

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

ごあいさつ

仙台発 震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅のコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするため2011年12月に創刊されました。

震災から4年目を迎え、仙台市内に住む被災された方々の状況は、今も刻々と変化し続けています。みらいん編集部は、そんな皆さんの再建に向けての取り組みや心模様取材し、本冊子を今年度、隔月で発行していきます。

次の一歩を踏み出すための情報紙として、または、懐かしい顔を見つける読み物として…。本紙が少しでも皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

「みらいん」編集部一同

仙台発 震災復興 地域かわら版 みらいん [32号]

2014年9月1日発行

発行
仙台市

企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック

岡崎裕子
熱海奈穂子/網野武明/鉅鹿大輔/菊地明彦
齋藤孝之/佐藤有希/芳賀幸子
金子秀樹

印刷

ハリウ コミュニケーションズ株式会社

協力

河北新報社

特別協力 (五十音順、敬称略)

千田佐知子/はまなす蒲生・港の会

お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 2-12
協同組合みやぎマルチメディア・マジック
「みらいん」編集部
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756
kawara@mmmm.or.jp



表紙のひと

いわぶち たけし しのはらしょうた ほたか たまみ
(左から) 岩淵健史さん、篠原翔太さん、穂高圭美さん、
にいの あきら とがし よしお
新野聡さん、富樫悦夫さん

若林区藤塚で生まれ育った篠原翔太さんは、小学生の時に近所に開園した海岸公園冒険広場“ぼうひろ”を我が庭のように、自転車を漕いで遊びに通いました。“ぼうひろ”とは、小さな冒険を秘めた遊びの中で子どもが生きる力を育むことを支える場で、遊具広場やデイキャンプ場を併設する都市公園です。篠原さんは、「ここには、何かあっても適切な助言を与えてくれるスタッフたちがいますから、火を起こす、のこぎりを使うといったことが自由に出来ます。虫獲りにも熱中しました」と思いを馳せます。

震災の影響を受けて現在は休園中の同園ですが、運営団体のスタッフは拠点を仮設住宅などに移し、子どもたちに遊びの場を提供しています。時間があるとスタッフとともに子どもたちとサッカーに興じるなど、触れ合いの場に出ず篠原さんは「自分たちが遊んできたように、いつか再開した“ぼうひろ”で子どもたちが思い切り遊ぶ姿を見たい」と希望を口にしました。

運営スタッフの岩淵健史さんは、「この丘状の冒険広場は、低地の広がる仙台市沿岸部では災害を免れた貴重な場所」と語ります。周辺の湿地帯では、長いこと見られなくなっていた植物が息を吹き返す状況もあり、各方面から生態系に配慮した復興が求められています。

撮影場所/海岸公園冒険広場(若林区井土)。撮影当日は自然観察に開放され、その専門家たちにも写真に収まってもらいました

前略
お元気
ですか

はん
ぐい
孝
子
さん

からのお便り



やよ江ちゃん、その後お変わりありませんか？あの震災・事故から丸三年も過ぎ、私が仙台へ避難して、福島で仲良かったやよ江ちゃんとは遠く離れてしまいました。避難当初は、あなたとの電話やメールにとっても元気づけられましたよ。お互いに、慣れない土地で家族の介護をしながらの避難生活は、毎日必死でしたものね。

南相馬市自宅付近の避難解除の知らせに喜んで、除染作業の遅れにがっかりしたり、私の気持ち折れそうになっていた時に、あなたが企画してくれた南相馬での食事は、とてもうれしかった。久々に会う職場の仲間と、懐かしい中華料理店で再会できたことは、この三年間で一番の思い出です。あの日は、皆話が止まらなかったものね。

やよ江ちゃん。お互いに先のことを考えると不安ばかりだけど、とにかく健康には気を付けてください。では、また会える日まで、お元気で！

お便りを
受け取った
佐藤やよ江さんより

孝ちゃんへ。ぶどう狩りに行った時の、あの甘酸っぱい香りを思い出すね。素敵な絵はがきをありがとう。

生活の場はそれぞれ変わったけれど、皆の笑顔もおしゃべりも変わらないよ。これから楽しい思い出を積み重ねようね！

皆で楽しくポストカードをつくってみませんか？

「みらいん」では、スタンプを押してポストカードをつくり、大切な人にあててメッセージを書く体験教室を開催します。教室でつくったポストカードの中から、次号のこのコーナーに掲載するハガキを選出します。はじめての方でも簡単にできます。ぜひご参加ください。参加無料。

- 参加にあたっては応募が必要です。下記をご覧ください。
- 対象者/東日本大震災で被災した、現在泉区にお住まいの方10名。応募多数の場合、抽選とさせていただきます
- 開催日/9月28日(日)14:00~16:00
- 会場/泉区中央市民センター(泉区市名坂字東裏53-1)
- 応募方法/3ページの「みらいん」編集部お問い合わせ先に電話でご連絡ください
- 応募締切/9月19日(金)

受けたご恩を誰かに送ろう！

恩送りの輪

支援のご恩を誰かに送る方、活動の場で元気をもらおう方など、被災後、ボランティア活動を通して人と人のつながりの輪を深める方が増えています。



▲「地域の人を笑顔にしたい」と目標を掲げる児童たち

竜巻被害支援をきっかけに恩送りを続ける

中野小学校の全児童

東日本大震災の甚大な津波被害で校舎が使えなくなり、二〇一一年四月から中野栄小学校に併設して授業を継続している中野小学校。学区が災害危険区域に指定されて、同校は二〇一六年三月に閉校することが決まりました。

児童たちは震災で悲惨な経験をしたけれど、日本全国のみならず世界中の多くの方の温かさを肌で感じることでできました。人々の優しさに支えられて笑顔を取り戻せた児童たちには、自然と他人を思いやる心が芽生えていきました。昨年五月の朝会で校長先生がアメリカの竜巻被害について述べると、「皆で支援活動しよう」と児童たちから声が上がりました。自分たちがうれしかった支援などをヒントにして、児童会代表委員を中心に支援内容を話し合いました。児童全員で折鶴をつくり、

仙台の四季を表すちぎり絵は一〜四年生、手紙とビデオレターは五〜六年生が担当し、「離れていても応援している」思いを届けました。この、他者を思いやる取り組みは、児童たちの精神を解き放つきっかけとなり、その後も台風被害を受けたフィリピンへの募金活動や、プレハブ仮設住宅を訪問して住民の皆さんと餅つきやカラオケで交流する活動につながりました。今年五月には、お世話になっている中野栄地域の皆さんへ太鼓演奏で感謝の気持ちを届けるなど、恩送りの輪が広がっています。



▲自分にできることを心を込めて、さまざまなボランティア活動に取り組んでいます

皆の気持ちを支えにできることを続けたい

澁谷志津子さん

石巻市から青葉区下愛子の借り上げ民間賃貸住宅に移転した澁谷志津子さん。移転後、宮城社会福祉センターで二つのボランティアを始めました。ひとつは親子ビクス(母子で行うエアロビクス)のお手伝い。もうひとつは、高齢の方向けに脳トレニングを行う教室の学習サポーターです。

親子ビクスでは、自身も参加者と同じく「母の立場として皆と一緒に成長できる」、学

習サポーターでは、「皆さん学校の先輩のように優しく、逆に支えられています」と澁谷さん。多くの人と触れ合うセンターでの活動は、支えであり、よりどころにもなっています。

活動を始めたきっかけであり、澁谷さんの支えにもなっているのが一通のメールです。震災で亡くなった大親友が最後に送ってくれた「しづさんの強いところが大好き」というメッセージ。通信の混乱で震災の一月後に届いたこの言葉が、澁谷さんへのエールになりました。

「できることをやっていきたい」、皆さんの温かな思いを胸に活動続ける澁谷さんです。

福祉活動のお手伝いを通して地域の方へ感謝を送る

和田と蒲生地区の福祉委員

東日本大震災前は、宮城野区中野四町内にも他の地域と同じようにそれぞれ福祉委員がいて、「いきいきサロン」のお世話など福祉活動のお手伝いを

▼和田(前列4名)、蒲生(2列目左端)福祉委員と地域の皆さん



していました。甚大な津波被害により、地域住民はプレハブ仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅などに入居し散り散りに。地域の中には、震災後に福祉委員が不在となった町内会もあります。「バラバラになった皆と一緒に楽しめる時間を」と、高砂第三地区民生委員・児童委員の協力のもと、二〇一二年十月、震災後初の「いきいきサロン」を開催。踊りを披露し、カラオケで交流しました。その後も高砂一丁目公園仮設住

宅と仙台港背後地六号公園仮設住宅で年一回サロンを開き、お手伝いを続けています。「サロンに参加くださる地域の皆さんから力をいただいています」と、震災の痛みを分かち合える地域の方々と触れ合うことで、自分たちが笑顔を取り戻せた感謝を忘れません。同郷の皆さんと一緒に、唱歌『ふるさと』を心から楽しく歌える日を願って、地域の方へ感謝の気持ちを送り続ける福祉委員の皆さんです。



▲キラキラと輝くような笑顔が印象的な澁谷さん



▲「また皆さんにお会いしたいです」とほほ笑む横山さん

震災での経験を活かし、被災された方の心に寄り添う

横山紀子さん

「同じ被災者だから共感できることもあると思うんです。『まわりの人には理解してもらえない』と涙を流しながらお話しする方もいました」。そう話すのは仙台傾聴の会の横山紀子さんです。仙台傾聴の会では相手の話を聴くことで心に寄り添う活動をしています。横山さんは老人福祉施設のほか、ご自身も若林区荒浜で被災しながら若林区中央市民セン

ターやあすと長町仮設住宅で開かれる被災された方向けのサロンで傾聴ボランティアをしてきました。

活動のきっかけは、震災で環境が変わった影響から同居していた母親が認知症を発症したことでした。接し方に悩んだ横山さんは傾聴ボランティア養成講座を受講し、仙台傾聴の会の森山代表や同じボランティアの仲間助けられたと言います。「震災の影響で心を病んでしまう方も多く聞きます。同じ立場の皆さんの力になれたらうれしい」と話す横山さん。

現在、母親の介護のため活動を休止中ですが、「母の体調が落ち着いたら復帰したい」と意気込みを話してくれました。

得意の手仕事で支援にお返ししています

ボランティアサロンの皆さん

市内の借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々が活動する「ボランティアサロン」。支えあいセンターのサポートのもと、裁縫や編み物の作品を各所に寄贈しています。

「最初は雑巾だったわね」皆さんの支援に少しでもお返ししたくて「サロン発足当時の様子を教えてくれたのは、メンバーの遠藤恭子さん、熊谷八重子さん、鈴木幸子さん。全国から支援される毛糸や布地等で手芸を楽しんでいたものの、『支援されるだけでは申し訳ない』と、支援物資のタオルで雑巾を作り、活動場所である仙台市福祉プラザの清掃スタッフに寄贈しました。これを

子育てのベテランとして、母子たちと向き合う

ちくちくの会の皆さん

昨年度、支え合いセンターいずみが主催する交流サロンで、参加者がつくったお手玉や衣類などを子育て応援施設「のびすく泉中央」に届けたことがきっかけで自主的なグループに発展した「ちくちくの会」。現在は隔月で六名のメンバーと母子との触れ合い交流の場「緑側の日」を同施設で実施しています。そこでは、メンバーが参加

した子どもを抱っこし、昔遊びや絵本を読み聞かせ、母親の相談相手になり、各自が肩の力を抜いて触れ合う時間を過ごします。「安心ですね。慣れているなあつて」と、子どもと参加している母親。また、他の母親は「子育ての先輩に悩みを聞いてもらったり、助言を受けたり、気持ちがおさまる」とほっとした表情で語ります。メンバーは震災後に身内を頼って県内の被災沿岸部から泉区へ移って来た方が多く、「家から飛び出す機会をくれた支え合いセンターの支援に救われた。最初は皆泣いていた」と話します。連絡係の鹿野瑠美子さんは「色んな人に助けられたから、私たちの出来ることから何か行動しないとね」と恩送りを語ります。

日頃の支援に感謝を込めて ラーメンで恩返し

種田穠吉さん

若林区の七郷中央公園仮設

▼こんなに喜んでもらえるなら、これからもどんどんつくりますよ！



きっかけに、その後もアクリルタワシや新聞紙でつくった物入れなど、多様な作品を製作。寄贈先もボランティア団体や、公共施設、整備が進む復興公営住宅などに広がりました。サロンには「声掛けしなくて



▲作品を手に笑顔の皆さん

住宅集会所で六月六日(金)に開催されたのが「ラーメン祭り」。このイベントは、仮設住宅に暮らす種田さんが自治会と相談しながら企画しました。「震災の年の九月にこの仮設住宅へ入居しましたが、それからずっとボランティアの皆さんにお世話になってるんです。いつも支援を受けるばかりじゃなくて、何か自分に出来ることで、皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたかったです」と語る種田さんは、震災で閉店するまでラーメン店の店主でした。

『ラーメン祭り』に、ぞくぞくと集まったボランティアや仮設住宅入居者の皆さんは、種田さんがつくったラーメンをすすりながら「いいダシが出るスープですね」「このチャーシューがおいしい」と大喜び。部屋中がラーメンの香りと笑顔で埋まりました。

約七十人前のラーメンをつくり終えた種田さんは「準備に三日間ほどかかりましたけれど、皆さんの喜ぶ顔を見たら、こっちまでうれしくなりました。またやりたいですね」と、鍋振り四十年の腕をさすりながらうれしそうでした。

◀連絡係の鹿野さん(下段中央)を中心としたメンバー。「年記者は小さい子と波長が合うの」という皆さんです



中越地震から10年 復興の歩みから学ぶこと



①木籠の松井さん(前列中央)と ②山古志の棚田 ③地域の伝統行事、牛の角突き ④地元女性がつくる弁当

つらさや切なさを乗り越えて 外の人も加え楽しくまちづくりを

7月19日(土)から3日間、宮城野区の南蒲生でまちづくりに取り組む南蒲生復興まちづくり推進委員会が、新潟県中越地震から今年で丸10年を迎える現地を視察しました。震災の5年後、10年後に起きること、震災後のまちづくりなど、多くのヒントが得られました。

視察初日、中越防災安全推進機構の阿部巧さんと齊藤隆さんから、特に被害が大きかった長岡市山古志地域(旧山古志村)の震災に関する概要を聞きました。発災直後、中山間地の山古志では地滑りがひどく、ヘリで全村避難したこと。全戸帰還を目指したが、戻ったのは7割程度で過疎が進んだこと。復興基金として600億円が投入され、住宅・生業・コミュニティ再生など幅広く使われたことなどを聞きました。

次に訪れたのは、震災時、河道閉塞で集落が水没した山古志の木籠集落。ここには水没した複数の家が当時のまま残されています。地震の脅威を後世に伝える使命があるとし、その保存を推進したのが区長の松井治二さん。「自分の家も水没して皆と同じ状況だから我慢してくれや」、それが周囲を説得する唯一の材料でした。松井さんから学んだのは、つらさや切なさを自分に与えられたこととして乗り越える強さ、10年経てば誰でもそうなること。そして、まちづ

くりは外部の方々も巻き込み、できることから楽しんで叶える、ということでした。

小さなことからどんどん叶える 復興に女性の力は必要不可欠!

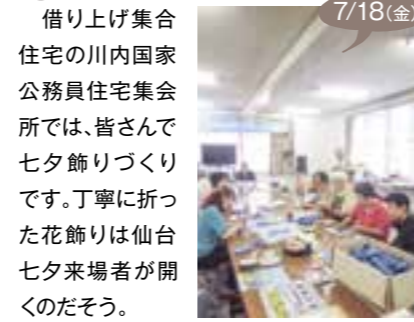
2日目は地域内で最も世帯数が多い山古志の虫亀集落へ。元区長の若槻敬さんが教えてくれたのは、集落の復興に女性の力が不可欠だったことでした。身近な課題から解決していく女性たちは、産直所や農家レストラン、農産加工所もつくって切り盛りし、収益を上げています。ただし女性の力だけに頼らず、行政との連絡役や補助金などの情報収集など、男性のサポートも必要とのことでした。また、空き地の活用について震災後移転した近所の空き地にそばの種をまいて収穫して「そばまつり」を開催し、食べ物で交流人口を拡大させた事例も学びました。

この日の宿泊先では、長岡市川口地域の木沢集落の方々と交流を図りました。木沢には、今も地域のことを気にかけ関西から定期的に足を運んでくれる若者がいるとのこと。その若者はじめ多くの人々が木沢に来てくれたことが、地域の方々の大きな励みになりました。外の人にいかにか地域のファンになってもらい何度も訪れてもらうか。そのためにはきれいな景色や食べ物以上に、人と人のつながりこそが重要だと思える今回の視察研修でした。



七夕で花開く飾りづくり

(青葉区・川内国家公務員住宅)



7/18(金)



ふるさとの復興に向けて

(若林区・荒浜)



7/21(月・祝)



仲間との再会がうれしかった

(若林区・サンピア仙台)



7/27(日)

防災集団移転促進事業で地域再建を目指す、荒浜移転まちづくり協議会の夏祭りが開かれました。ステージには、婦人部のフラダンスや有志の歌謡舞踏、宮城県建築士事務所協会メンバーによるちんどん屋さんなどが登場。ハウスメーカーの相談コーナーにもぎわいました。



きれいな花壇が出来ました

(太白区・あすと長町仮設住宅)



7/6(日)

公益財団法人 仙台市公園緑地協会の協力のもと、毎年花壇づくりが行われています。今回は4回目ともあって皆さん作業はお手のもの。慣れた手つきであっという間にペゴニアやブルーサルビアなどの苗を植え、住宅の景色に華やかな彩りを添えていました。



スイカでこんにちは

(宮城野区・田子西復興公営住宅集会所)



7/12(土)

梅雨の合間の好天に恵まれ、待ちに待った復興公営住宅集会所のお披露目会が開かれました。千葉県富里市生産組合から届いたスイカをほおぼりながら、住民と「田子西復興公営住宅支援者の会」の方々、約130名が交流。子ども同士の会話が弾み、大人たちも打ち解ける場面も。



たくさん取れました!

(太白区・芦の口復興公営住宅)



7/13(日)

入居者の方たちと町内会の皆さんが敷地内の草取りを行いました。八木山中学校野球部の皆さんのお手伝いもあって、刈り取った草は120袋にも及びました。作業後は町内会の集会所でお茶飲みをしながらお互いを労いました。「汗臭いからシャワー浴びて来ない」「じゃあ、一緒に浴びちゃう?」と、冗談を言い合うほど親しくなった入居者の皆さん。作業を通して交流を深めていました。



手づくりジュースで乾杯!

(太白区・NTT三神峯社宅)



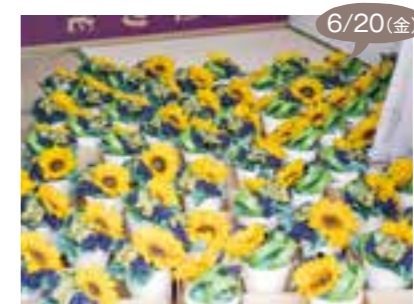
6/17(火)

借り上げ集合住宅のふれあい喫茶でエコな料理方法について学びました。先生が話す、できるだけ電気や火を使わない調理方法に皆さん感心しきりの様子でした。最後に実践としてミキサーを使わずにつくったバナナジュースで乾杯! 皆で美味しくいただきました。



「たんぽぽの会」とヒマワリ

(宮城野区・岡田西町公園仮設住宅)



6/20(金)

プリザーブドフラワーの講習を受けた6名が、5作目となる作品の製作に大わらわ。これまで母の日のカーネーションや、岩手県大槌町で再建したホテルの装飾品を手掛けた皆さん。今回は宮城県美術館での「東日本大震災復興支援特別公開 ゴッホ〈ひまわり〉展」等で販売されるものです。

6月~7月

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

手と心で触れ合っ

(宮城野区・新浜仮設集会所)



6/15(日)

岡田地区新浜町内会で昨年8月から始まった「女子会」。回を重ねるごとに参加者が増え、和やかな交流が続いています。この日は先生を招き体の循環を良くする健康体操や、マッサージを体験。顔見知りの女性同士とはいえ、普段手で触れ合うことは稀なため、皆の心に響きました。



花壇に苗植えて良い汗を

(泉区・鶴が丘1丁目NTT社宅仮設住宅)



6/15(日)

爽やかな朝、鶴が丘1丁目NTT社宅仮設住宅の皆さんによって、敷地内の花壇に、所属する町内会から提供された花の苗が植えられました。「大体いつもの顔ぶれ」とのことですが、大勢で集まることの少ない皆さんにとって、隣人の顔を確かめられる良い機会です。

田子子育てサロンで一緒に歌って踊って友だちをつくりましょう



どんどん広がる
活気あふれる便利な街



①田子子育てサロン



②たごっこすずめ踊り



③田子オイルパステル同好会



④田子・福田町ふれあいサークル



⑤上田子楽寿会

田子西第二エリア及び田子西隣接エリアは、南側は国道四号バイパスに接続する都市計画道路と、東側は仙台港及び仙台東部道路へ連絡する二本の都市計画道路に近く、主要幹線道路の交差する位置にあります。最寄り駅はJR仙石線福田町駅です。田子西復興公営住宅では、一足先に入居が始まっています。七月十二日に行われた集会所お披露目会にて、田子西復興公営住宅支援者の会の牛坂勝会長は「子育て世代にも高齢者にも住みよい便利な街です。よりよい地域づくりに参加する意味でも、自治会の立ち上げを応援しています」と語りました。田子西第二・田子西隣接エリアにおいても自治会は不可欠なので、良い先事例となることを願っています。

田子西第二復興公営住宅の工事の進捗具合は、七月末現在で躯体工事中、田子西隣接の防災集団移転宅地は造成工事中となっています。

地域の町内会 & 交流グループなど

- ①田子子育てサロン 乳幼児を持つ親子同士の交流の場として、主任児童委員が中心となって開催。毎回60名以上の参加者が集まり、とてにぎやかです。毎月第1木曜日田子市民センター2階和室10:00~11:30 問/022-254-2721 (田子児童館)
- ②たごっこすずめ踊り 設立6年目、現在子ども13名(最年少5歳)、大人12名で青葉まつりや夏祭りのほかに施設での演舞も行っています。踊り手・お囃子は老若男女問わず随時募集中。基本的に毎週日曜日9:00~田子市民センターで練習しています。問/080-2810-5212 (園分)
- ③田子オイルパステル同好会 田子市民センター主催事業から立ち上がったアートサロン活動です。毎回さまざまなテーマを紙や立体にオイルパステルで絵を描きます。毎月1回木曜日10:00~12:00。問/022-254-2721 (田子市民センター)
- ④田子・福田町ふれあいサークル 地域包括ケア構築事業からスタートした、介護予防体操の自主サークルです。参加者随時募集中です。第1・3月曜日13:30~15:00 田子2丁目集会所で開催。問/022-388-6101 (福田町地域包括支援センター)
- ⑤上田子楽寿会 会員50名の老人クラブです。地域奉仕活動はじめウォーキング、グラウンドゴルフなどの健康増進活動を精力的に行っています。写真は高砂地区老人クラブ連合会グラウンドゴルフ大会の様子です。問/022-258-8634 (大場)



▲オイルパステルは誰でも手軽に扱える懐かしい画材です



これから整備される復興公営住宅、防災集団移転促進事業の宅地ができる地域の様子と、地域で交流を楽しむ方々をご紹介します。※は防災集団移転促進事業宅地、それ以外は復興公営住宅建設地です

ほっとカフェつるがやでは週替わりで手芸教室などを併催しています

高齢になっても元気でいられる
安心なまちづくり



⑥鶴ヶ谷ノルディックウォーキングサークル



⑦鶴ヶ谷東マイスクール児童館



◀地域情報満載の鶴ヶ谷健康情報紙「ぐるっと!まるっと!」は年1回の発行

地域の町内会 & 交流グループなど

- ①つるがや元気会 鶴ヶ谷地区を活性化し、明るく元気なまちにすることを目的とした団体で、各種サロン活動、健康講座、元気まつりを開催。第14回みやぎの区民活動賞受賞。写真は地域交流の場として開催している茶会「ほっとカフェつるがや」です。毎週土曜日14:00~16:00 みやぎ生協鶴ヶ谷店2階集会所
- ②つるがやリフレッシュ倶楽部 介護予防運動の自主グループ。オリジナルの「リフレッシュ体操つるがや」を中心に、簡単な脳トレや音楽に合わせた体操で楽しみながら健康づくりを行っています。245名の住民会員が地区内6カ所の集会所やコミュニティセンターで月2回開催。問/022-388-3801 (鶴ヶ谷地域包括支援センター)
- ③鶴ヶ谷ノルディックウォーキングサークル 市民センターの講座からスタートした自主サークルです。ポールを使った膝や腰に負担の少ない歩き方で、健康づくりを行っています。主に中央公園周辺で活動しています。毎週水曜日10:00~12:00。問/022-251-1562 (鶴ヶ谷市民センター)
- ④子育てサロンつるがや 0歳児~未就園児を持つ親子向けの子育てサロンです。スタートから9年目、広い畳の部屋で活動しています。毎月第1・3水曜日10:30~12:00 鶴ヶ谷東コミュニティセンター。問/022-251-6303 (関)
- ⑤鶴ヶ谷東マイスクール児童館 鶴ヶ谷小学校内に併設された児童館です。小学校1~3年生を対象とした、放課後を楽しく過ごせる登録制の児童クラブがあります。地域の皆がふれあう交流広場を目指します。問/022-251-0675 (渡部)



①つるがや元気会



②つるがやリフレッシュ倶楽部



④子育てサロンつるがや

鶴ヶ谷エリアは仙台市中心部より北東にある丘陵地帯で、一九六六年から造成分譲された、当時東北最大級のベッドタウンでした。それから約五十年が経過した現在、高い高齢化率を示す地域として知られています。しかし「実は高齢者が多い割には要介護・要支援の方は仙台市平均より少ないんです。つまり、元気な高齢者がたくさんいるんですよ」とは鶴ヶ谷地区町内会連合会長の遠藤正志さん。同時に「孤独にさせない仕組みづくりや各団体との連携を充実していきたい」と抱負を語ります。

鶴ヶ谷第二復興公営住宅の工事の進捗具合は、七月末現在で完成間近、鶴ヶ谷第三は設計中となっています。

泉中央南 エリア (泉区)



泉中央交流カフェでは、運動やコンサートのほか、物づくりなども楽しめます

長命館公園サポーターズクラブでは、もっと公園の事を知ってもらおうとパンフレットを作成しました



加茂ミニバスケットボール愛好会



長命館公園サポーターズクラブ



宮城手打そば研究会



泉中央交流カフェ



泉はつらつクラブ

地域の町内会 & 交流グループなど

- 泉はつらつクラブ 毎週火曜日の午前中に、泉区泉中央にある泉中央第1集会所などで活動中。介護予防を目的とした脳トレや、筋トレを兼ねた楽しい体操などを実施しています。月会費500円。問/022-375-3256(事務局・伊藤)
- 加茂ミニバスケットボール愛好会 加茂小学校区のスポーツ少年団として、加茂小学校体育館などで練習しています。見学や体験入部も大歓迎。問/男子080-5226-9742(遠藤)・女子090-2995-0749(大内)
- 長命館公園サポーターズクラブ 地元の歴史公園「長命館公園」の維持・整備活動を行っているボランティア団体です。毎月清掃活動を行うほか、地域のお祭りやイベントにも参加します。問/022-378-1156(事務局)
- 宮城手打そば研究会 加茂市民センターで活動中。仮設住宅などに出向き、炊き出しなどのボランティア活動も行っています。問/090-3367-3318(柏倉)
- 泉中央交流カフェ 地域住民の交流が目的のサロン。多彩なプログラムで、住民同士のコミュニケーションを深めています。問/022-372-8101(泉区中央市民センター)

市民サークルの活動が活発 住環境に恵まれたエリア

仙台市地下鉄南北線の拠点として、毎日多くの人々が行き交う泉区泉中央。大型の商業施設や公共施設なども充実しており、泉区の中心地として発展してきました。現在、復興公営住宅の建設が進められている泉中央南は、その泉中央に隣接しており、利便性の高さが魅力です。一方で周辺は閑静な新興住宅地が広がるなど、静かで住みやすい、住環境に恵まれたエリアとなっています。

近隣には、七北田公園や長命館公園などの大型公園が整備され、四季折々の自然も楽しめます。また学区内では、数多くの市民サークルやボランティア団体の活動が活発で、住民同士のコミュニケーションがとりやすい活気あふれる街です。

泉中央南復興公営住宅の工事の進捗具合は、七月末現在躯体工事中となっています。

各復興公営住宅の立地や間取りなどの情報は「平成26年度復興公営住宅情報」(仙台市都市整備局復興公営住宅室発行)でご確認ください。冊子をご覧になりたい方は、現在お住まいの区役所まちづくり推進課にお問い合わせください。
青葉区/022-225-7211、宮城総合支所/022-392-2111、宮城野区/022-291-2111、若林区/022-282-2111、太白区/022-247-1111、泉区/022-372-3111(すべて代表番号)

これから住むまち



ピンポン会には卓球部出身者はゼロ。参加するうちに皆さんラリーが続くようになったそうです

地下鉄開通で利便性がアップ 皆がいきいき暮らせる街

若林区北部に位置する六丁の目界隈は、仙台印刷工業団地をはじめとする工業施設が点在するエリアです。郊外を中心とした住宅地域では、古くからこの場所で生活を営む人々のほか、近年は集合住宅が増加傾向にあるとのこと。それぞれの住民が交流を深め、活気あふれるまちづくりを目指す試みとして、従来の自治会イベントに縛られないレクリエーション団体「ひまわり会」を創設。運動やカラオケなど、主に趣味の活動を楽しんでいます。

二〇一五年には地下鉄東西線の「六丁の目駅」が開業予定。今後ますます交通アクセスの向上が見込まれます。

六丁の目町復興公営住宅と六丁の目西町復興公営住宅の工事の進捗具合は、七月末現在両住宅共に躯体工事中となっています。



六丁の目ふれあいサロン



ライトハウス



六丁の目ピンポン会



六丁の目長命会



六丁の目町内会

地域の町内会 & 交流グループなど

- 六丁の目町内会 六丁の目周辺に住む約1500世帯が所属する町内会。毎年多くの子どもたちが集まる盆踊り大会などを通して、住民同士のコミュニケーションを図っています。
- 六丁の目ふれあいサロン 地域に住む65歳以上の方を対象に、七郷六丁目コミュニティ・センターで開催しています。お花見やクリスマスなど、季節ごとにテーマを変えたプログラムを実施。多くの人が参加する人気のサロンです。
- ライトハウス 小学校3年生までの児童が参加する体操教室。ボールやなわとび、フラフープなど、いろいろな体育運動を通して、心身の成長を応援する教室です。問/022-226-1903(米田)
- 六丁の目ピンポン会 初心者大歓迎の卓球サークルです。木曜・土曜日の週2回、七郷六丁目コミュニティ・センターでの練習のほか、年1度の交流会なども行っています。ステップアップしたい方は、上級者向けの卓球サークルもあります。
- 六丁の目長命会 地域の65歳が集まる老人会。奇数月に誕生会を行うほか、研修会やイベントなどを通して、住民同志の交流を深めています。



▲毎年多くの子どもたちが参加する盆踊り大会。すずめ踊りも披露されます

読者から ひとこと

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせなどをお届けするコーナーです。
お茶飲みしながら、のんびり読んでくださいね。

●ふるさとを皆で盛り上げようと、宮城野区岡田の新浜町内会では「復興秋まつり」を開催します。移転された方々も一緒に、懐かしい話に花を咲かせて盛り上がりましょう。皆さん、お誘い合わせの上でご参加ください。日時／十月十三日(月)・祝 十一時三十分、会場は新浜仮設集会所です。
平山新悦さん

●震災後に福島県南相馬市から泉区へ移り、昨夏から「楽つみ木」ワークショップを主宰しています。創造性を刺激するヒノキの積み木は、皆が夢中になれてセラピー効果



果があります。興味のある方はご連絡ください。問／〇八〇三一九六(一〇三三三三) 阿部恵さん

●おかげさまで宮城野区田子で再建し、三世代で住んでいます。今年二月から自宅敷地で美容室「WOOD BELL(ウッドベル)」を始めました。元の地域の方や田子で再建された方々などが交流できる場所になると嬉しいです。ご予約をお待ちしています。
問／〇二二(三三三)九二〇二 鈴木梨沙さん

●青葉区の川内国家公務員住宅(借り上げ集合住宅)自治会「川内清流の会」の集まりには、すでにここを引っ越した方々も来てくれて皆さんと楽しんでいます。いつまでも皆さんと家族のような交流を続けたいですね。
小瀬良けさ子さん

●七月に新居へ引っ越しましたが、今朝も若林区荒井小学校用地仮設住宅集会所でラジオ体操と「青い



山脈」の曲に合わせてバトンを振る体操に参加しました。皆さんの顔を見ながら体を動かすことが健康に一番良い。仮設住宅の皆さんも近所で再建した方も、朝の体操で元気に過ごしましょう。
大学政一さん

●震災前は庭で野菜づくり、大きな樽でお漬物をつくっていました。今は青葉区の借り上げ民間賃貸住宅住まいなので、たくさんはできないけど漬物づくりは続いています。また大きな樽で漬けてみたいですね。
吉田ふみよさん

●太白区の三神峯N.T.T宅(借り上げ集合住宅)に一人暮らしです。先日、意識を失って倒れていた私を、隣室の増田さんが偶然訪ねて見つけてくれました。今回のことで、改めて人は一人では生きていけないと思いましたね。
佐々木正さん

●再建のめどが立ち、年内中には太白区のプレハブ仮設住宅を出る予定です。イベントにたくさん顔を出していたから仮設住宅には知り合いも多く、皆に会えなくなるのは寂しい。時々遊びに来たいと思っています。
菅野智穂さん

情報ボランティア@仙台 交流サロン 紹介

手芸サロン



「手芸サロン」は、青葉区の仙台市福祉プラザで月一回開催されています。仙台市社協の支えあいセンターあおばが主催し、毎回三十人以上が集うにぎやかな会。近隣の借り上げ民間賃貸住宅で暮らすに人々に、手仕事を通じた交流の場を提供しています。

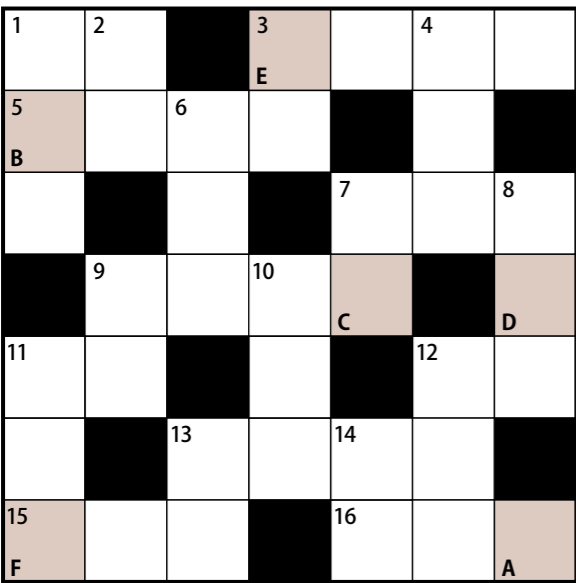
毎回異なるテーマの下、縫い物や刺し子の作品をこしらえます。皆で一緒に手を動かせば、自然と会話も弾みます。今夏は古新聞を用いた花飾りや折鶴であしらった吹き流しをつくり上げ、仙台七夕まつり会場を彩りました。「頭を使う手芸は日々を楽しみながら」講師役の佐藤恵子さん。今後は、日用品を再利用したりサイクル手芸に挑戦。さらに発想豊かに活動する予定です。

◆連絡先 〇二二(二二七)七二三四(中核支えあいセンター)、開所時間：八時三十分～十七時(月)金曜日

取材：下澤大祐@東北大学、小林奈央@東北学院大学
情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。 <https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16> (「河北新報オンラインコミュニティー」ブログ)

クロスワードパズル

出題 石田竹久 こたえ



- タテのカギ**
- 今年テーマは「音・楽・希望への架け橋」。9月13、14日に開催される、定禅寺ストリート〇〇〇フェスティバルin仙台
 - 10月10、11日、塩竈市で「しおがまさま神々の〇〇灯り」が開かれます
 - 和食などをいただく時に使う2本の棒
 - 自分の技量を示す晴れの場所は、ひのき〇〇〇
 - 鴨鍋などで仙台市民の舌を楽しませてくれる鴨肉といえば、アイガモや〇〇〇が代表的
 - 仙台市の市木はケヤキ、では市花は?
 - 味覚の秋、マイタケやシイタケなどを山で採る、〇〇〇狩り
 - 松、竹と並んでおめでたい植物
 - 生物の捕食の関係がつながっている、食物〇〇〇
 - 宮城県産で「あおばの恋」という品種があり、うどんなどの原料となる穀物
 - 高い体温を下げること
 - 核心を的確に捉えるのは、〇〇を射る
 - 宮城県を含んだ旧国名「陸奥」を2文字で読むと?

- ヨコのカギ**
- ことわざ。名を捨てて〇〇を取る
 - 9月7日、子ども科学屋台村「〇〇〇まつり」が角田市のスペースタワー・コスモハウスで開かれます
 - 追加で写真を焼き付けること
 - 船が排水量なら、クルマは〇〇〇量
 - 江戸時代に仙台市の青葉山で発見された炭化した木をルーツに、受け継がれてきた〇〇〇細工。宮城県の伝統的工芸品に指定されています
 - 日本人の主食。宮城県でも、ひとめぼれをはじめ、秋は収穫のシーズンです
 - お酒をたくさん飲む人はじょうご。では、まったく飲めない人は?
 - 9月13、14日、大崎市岩出山で開かれる、〇〇〇公まつり
 - 贈り物、進物。英語で言うと
 - 江戸時代から続き、青葉区の町の名前が付けられた〇〇〇人形と〇〇〇焼き。宮城県の伝統的工芸品に指定されています

前回のこたえ

1	タ	イ	リ	ヨ	ウ	ホ
2	ン	ツ	ク	ケ	コ	ヤ
3	サ	イ	カ	イ	ト	
4	ク	ワ	ニ	エ	ダ	メ
5	ナ	ス	ツ	ク	ソ	ン
6	ッ	イ	ス	ツ	ウ	
7	キ	タ	カ	ミ	オ	ダ

ナ ツ マ ツ リ でした。

自家製野菜で具だくさんの汁物

「すっぽこ汁」

ふるさとに
ごっつおさん

我が家で受け継がれてきた
郷土の味、紹介します。



材料・レシピ

材料(4人分)

●サトイモ 4個	●干しシイタケ 2枚
●油揚げ 1/2枚	●こんにゃく 1/4枚
●ニンジン 1/3本	●木綿豆腐 1/4丁
○豆麩 適量	○三つ葉 適量
○うーめん 100g	○水 800cc
◆昆布つゆ 大さじ2	◆醤油 大さじ2
◆お酒 大さじ1	◆塩 適量

つくり方

- 干しシイタケは水(分量外)に戻し、油揚げは油抜きをする。
●を1cm角に切る。うーめんは茹で、椀に盛っておく
- 鍋に水と風味づけに干しシイタケの戻し汁を適量加えて火にかけ、沸騰したら●を入れる
- ◆を入れ、10分ほど煮たら水に戻した豆麩を入れる
- 椀に3をかけ、刻んだ三つ葉を散らし、完成

小さく切った野菜や油揚げなどを醤油味の汁で煮込み、うーめんにかけた「とろみをつけないおくずかけ」を宮城野区蒲生では「すっぽこ汁」と呼び、地域で親しまれてきました。お盆やお彼岸のお供えものや仏事の際によくつくられ、定番はすっぽこ汁、寒い日にはとろみで冷めにくいおくずかけなどと、各家庭の好みでつくられていたと言います。「昔は皆、家の畑で採れた野菜でつくっていたんだよ」と話してくれたのは、宮城野区蒲生の鈴木きよさん。鈴木さんのお宅では家で採れた旬の野菜を使い、秋はサトイモ、夏はナスやミョウガなど、季節によって使う野菜を変えていました。「震災後は気持ちの余裕がなくなっていく機会が減ったけど、たまに出すと孫が喜んで食べてくれるんだよね」と、うれしそうに笑う鈴木さん。最後に「お客さんにはうーめんの上から汁をかけるけど、家族で食べる時は鍋に入れて少し煮ちゃうの。味が染みて美味しいよ」と教えてくれました。